

中小企業景況調査

令和4年1月

穴水町商工会

中小企業景況調査

はじめに

穴水町商工会では穴水町全体の商工業者の実態及び経営の悩み等を把握するため景況調査を実施しております。当商工会の経営指導員が事業所を訪問し、令和3年7月～9月の業況を調査しました。合わせて、全国商工会連合会及び石川県商工会連合会の景況調査についても記載致します。全国平均と石川県全体における事業者の景況感の違いを把握する趣旨の元、調査致しました。なお、内容は下記の通りです。

1. 当商工会の経営指導員が事業者からヒアリングした内容

①製造業関連

コロナウイルス感染拡大による影響は、依然として続いている。
一方で中国市場や欧米市場で回復の兆しが見えており、コロナ前の7～8割まで売上水準が戻ってきているとの声もあった。

②建設業関連

コロナの影響から外材が入らず、国産材が値上がりしている。また、二次製品(U字溝・ブロック等)や燃料費の価格も値上がりし、エコキュート・ウォシュレット等の住宅設備の納品が1ヶ月ほど遅れているとの声が聞かれた。材料の値上がりに対して価格転嫁ができておらず、収益性が悪化しているとの声もあった。

③小売業関連

オール電化の世帯が増えることでガス利用者が減り、売上は年々減少しているとの声や、人口減少及び高齢化によって、購買意欲のある20代～60代が減り、売上は年々減少傾向であるとの声も聞かれた。

一方でテイクアウト需要を取り込み、売上が増加している事業者も見受けられた。緊急事態宣言やまん延防止が解除された10月以降も、地域の観光や飲食業・イベント等の活気は戻っておらず、非常に厳しい状況が続いている。飲食店への協力金に準ずる支援や持続化給付金・家賃支援給付金等の救済策の素早し実施を強く望む声もあった。

④サービス業関連

緊急事態宣言全解除後も、特に顕著な人の流れが見受けられず、客足が少ないとの声や、地元商品券の取扱いが終了した10月以降は、地元客が来なくなったとの声も聞かれた。その他にも資金繰りが逼迫し、経営を継続していけるかどうか不安との声

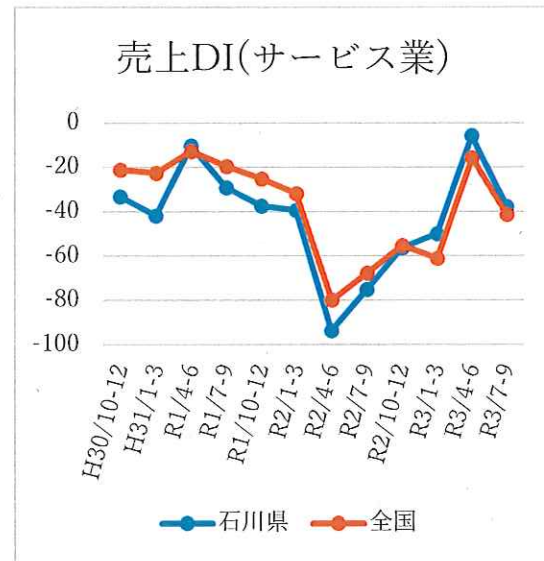
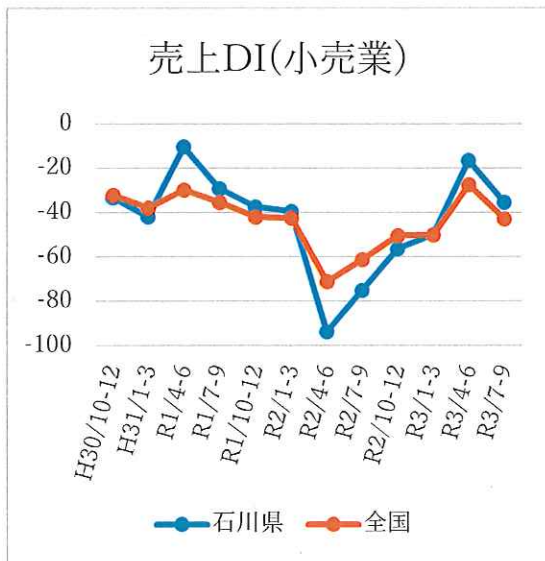
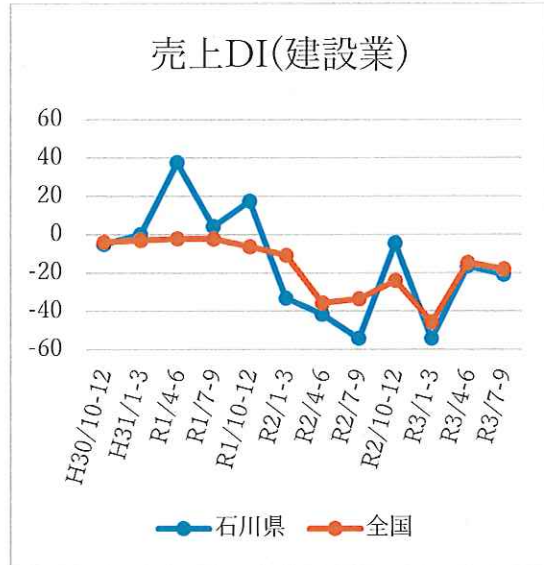
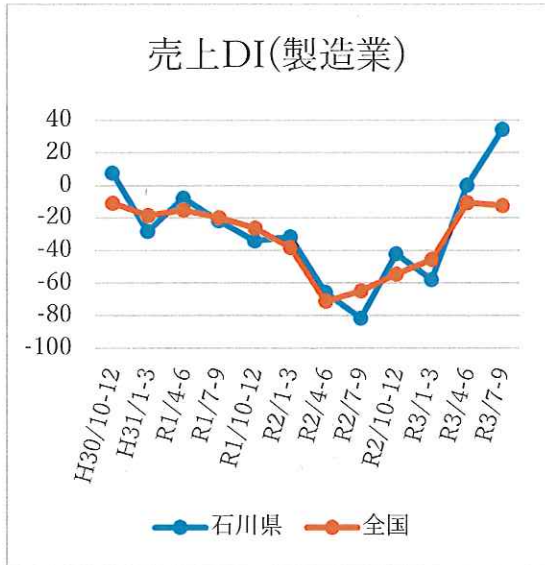
も聞かれた。

一方で、緊急事態宣言解除後は少しずつ客足が戻ってきているとの声や、コロナ前の水準まで客足が戻ってきているとの声もあった。特に飲食業では観光客をターゲットとしている事業者と地元客をターゲットとしている事業者で業況の回復状況に差が出てきているような印象を受けた。

1. DIとは

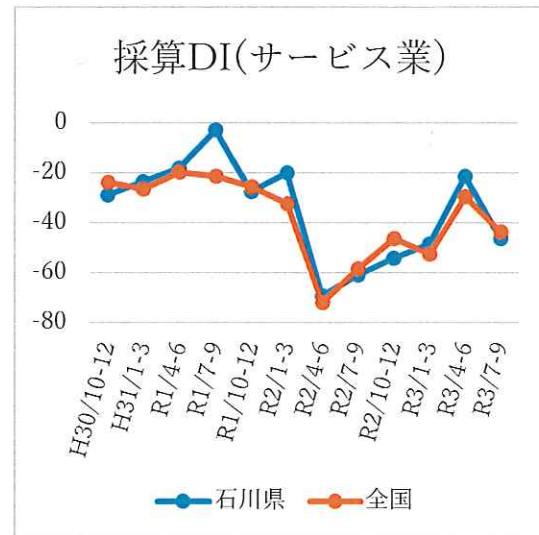
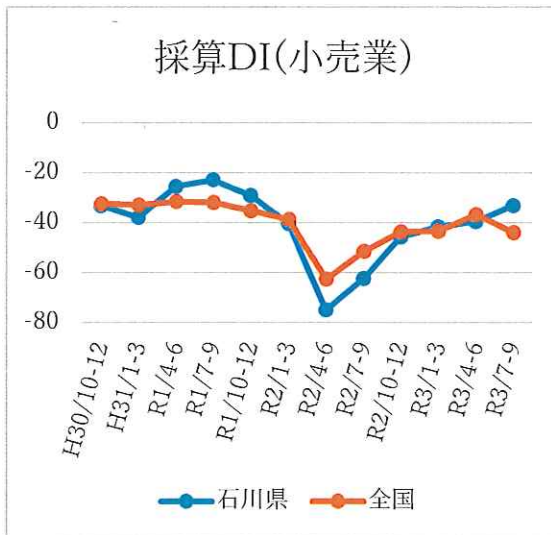
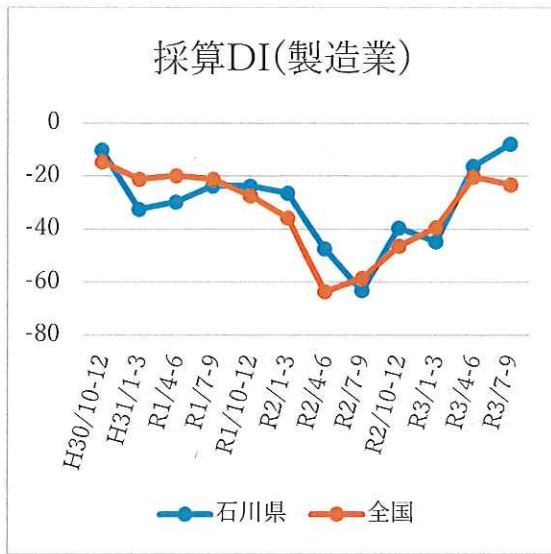
ディフュージョン・インデックス(景気)動向指数の略で、各調査項目についての増加(好転・上昇)企業割合から、減少(悪化・低下)企業割合を差引いた値を示す指標です。

1. 売上DI



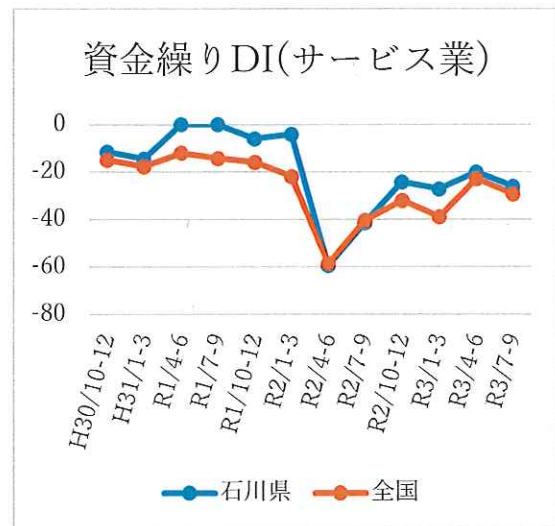
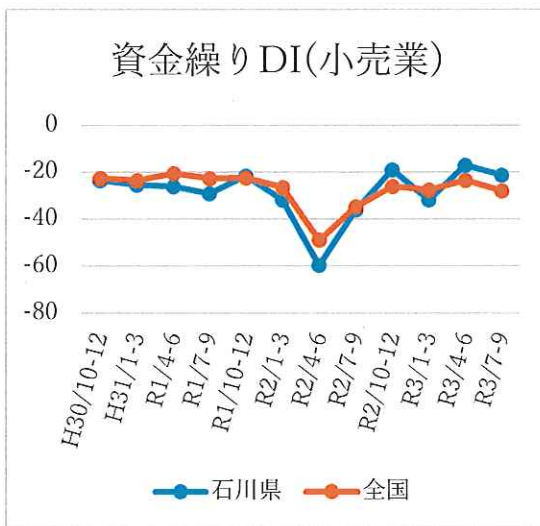
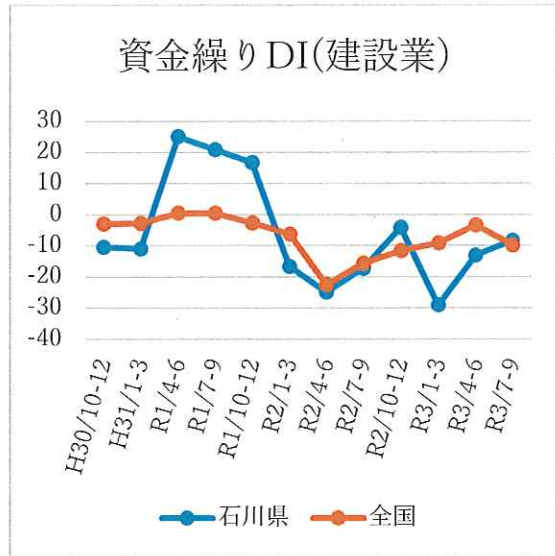
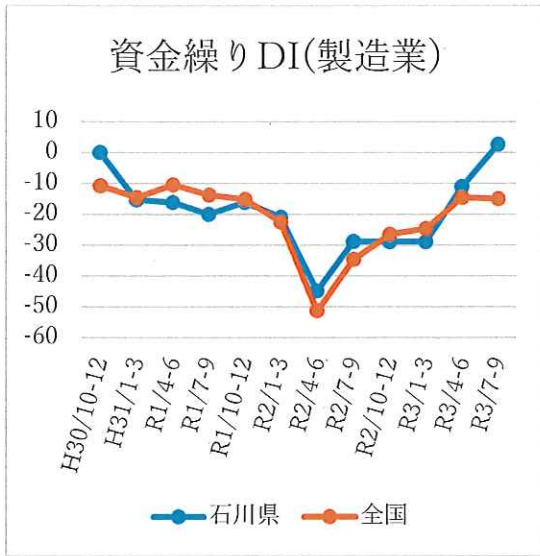
石川県の売上DIは全業種で全国平均と比較すると、振れ幅が大きく、業況変動が大きいことが伺える。特に石川県内の製造業においてはR3/4-6からR3/7-9にかけて業績の回復が顕著であることが伺える。中国の景況感改善による自動車産業の回復等が石川県内製造業の業績改善に好影響を及ぼしている可能性がある。

4. 採算(経常利益)DI



建設業において石川県は全国平均と比較すると、振れ幅が大きく、業績変動が顕著に表れている。R3/4-6 から R3/7-9 にかけて、全国平均と比較すると石川県内の製造業・小売業においては収益性の小幅な改善が見られるが、建設業・サービス業は悪化している。

5. 資金繰り DI



建設業において、石川県は全国平均と比較すると、振れ幅が大きく、資金繰りの良し悪しははっきりと表れている。製造業においては全国平均と比較すると、売上 DI・採算 DI 同様に大幅な改善が見られる。